



猟友会の活動

安全を第一に、地域を守る組織

里山にクマやシカが姿を見ることが珍しくなくなった今、地域の安全を支える存在として注目されるのが猟友会です。鳥獣による被害を防ぎ、市民の安心を守るために日々活動している一方、担い手不足という課題も抱えています。今回は、猟友会の役割や活動を紹介します。

☎ 農林振興課 995-1824

猟友会とは

猟友会は、鳥獣による被害や危険から地域の暮らしを守るために活動する狩猟者団体です。狩猟の技術や知識を持った会員が中心となり、シカやイノシシなどの出没時の現場確認や有害鳥獣の捕獲、市民への安全指導など、さまざまな役割を担っています。

農作物の被害や住宅地への有害鳥獣の出没が増える中、猟友会は市と連携し、捕獲や見回りなどの活動を行っています。鳥獣保護管理法に基づき、行政と住民の間をつなぐ「地域の安全を支える専門チーム」として、その役割はさらに重要性を増しています。

一方で、会員の高齢化が進み、担い手不足が大きな課題となっています。地域の安心を守るためには、猟友会の活動への理解と支援が欠かせません。

猟友会の主な活動

猟友会は主に次の活動を行っています。

1. 有害鳥獣の捕獲・管理

シカやイノシシなどによる農作物被害を防ぐため、罠の設置や見回り、捕獲後の処理を行っています。捕獲は法律に基づき、市と連携しながら適正に実施され、

地域の農業を守る重要な役割を担っています。

2. 地域の見回り・安全確保

早朝や夕方など、動物の活動が活発になる時間帯に見回りを行い、山間部や住宅地の状況を確認しています。有害鳥獣の出没リスクの高い季節には、重点的な巡回を行うこともあります。

3. 市民への啓発・情報提供

里山での注意点や有害鳥獣を寄せつけないための被害防止対策などについて、市民や地域団体に情報提供を行っています。

4. 行政との連携・緊急対応

市役所や警察などと連携し、有害鳥獣の出没時には現場の状況を共有しながら安全確保に努めます。地域の有害鳥獣による被害を防止する体制の一翼として、迅速で正確な情報提供や判断が求められる業務です。



クマの被害防止対策

- ①クマ鈴など音になる物を携帯し、自分の存在を知らせましょう。
- ②生ゴミや野菜や果実の残りがすは適切に管理しましょう。
- ③クマの生息地に近づく場合は1人で行動せず、複数人で行動しましょう。

裾野市猟友会データ

設立年／昭和48年(会則の制定年)

会員数／54人

年齢構成／40代5人、50代6人、60代4人、70代29人、80代8人、90代2人(うち女性会員1人)

捕獲活動／年間通じて実施(有害鳥獣捕獲は土日どちらか1日)

入会資格／市内に居住し、狩猟免許を所持している者

市内のクマの目撃状況

令和7年は全国的にクマの目撃情報が多く寄せられました。市内でも9件の目撃情報が寄せられ、令和6年度の4件、令和5年度の8件を上回る件数でした。

最近のクマの目撃状況について猟友会会長の渡邊さんは「クマが急に増えているとは思っていません。シカが増えたことで餌となる木の実や隠れる場所がなくなり、人里でのクマの目撃情報が増えていると感じています」と話しました。

市では、クマへの注意喚起を行うなどの対応を行っ

ています。特に須山地区や十里木地区のような富士山周辺は、ツキノワグマの生息地になっているため、注意が必要です。

クマは生ゴミや野菜、果実の残りがすなどに引き寄せられます。被害にあわないためにも、適切な管理をお願いします。

もしクマを目撃した場合は、まずは落ち着いてゆっくり静かに立ち去りましょう。クマがパニックになるような刺激は与えないでください。クマを目撃した場合は、農林振興課へ連絡をしてください。

「事故なく安全に」が 猟友会の目標です

猟友会 会長
渡邊 久彦さん(富沢)



猟友会という、今ではシカやイノシシの捕獲というイメージが強いかもしれませんが、しかし本来は、狩猟を楽しむ仲間の集まりでした。私が鉄砲を持ち始めた頃は、ウサギや鳥を撃つのが主で、大物を狙う人はほとんどいなかったんです。昔はシカ自体が非常に珍しく、もし獲れたらグループ内で誰かが買い取るほど希少なものでした。それが保護の影響もあって数が増え、今では山の植生が失われ、生態系が大きく変わってしまっている状況です。シカが藪を食べてしまうため、山では藪だった場所が見通せるほどスカスカになっていま

す。シカが藪を食べることでクマの餌や隠れる場所がなくなり人里に出てきてしまう。こうした背景から、現在は有害鳥獣捕獲が活動の中心になっています。

猟友会としての課題は捕獲した動物の処理と後継者不足です。最近は40代の人が入ってくれましたが、若い人は仕事や家庭との両立が難しく、土日の活動を無理にお願いするわけにもいきません。猟友会に入っているという銃を持っているのでびっくりする方もいますが、銃を持つには警察の厳しい審査や講習があり、適正な管理が求められています。

私たちの目標は「事故なく安全に」です。猟は複数人のチームで行うもので、鉄砲は一歩間違えば危険なものです。信頼できる仲間と協力し、市民の皆さんが安心して暮らせるよう、これからも責任を持って活動が続けていきたいと思っています。